



あい 逢
あい 逢

第
48
号

特定非営利活動法人 愛逢

尼崎市小中島1-20-21

電話 06-6493-1424

FAX 06-6493-1443

発行責任者 長谷川 達雄

発行日 2013年3月26日

暮らしの中で“死にゆく”こと 「死」のなかの「豊かさ」って？

2月24日尼崎アルカニック・ミニで250名の参加者の中、講演会とシンポジウムを行いました。第一部・基調講演では、作家の田口ランディさんを迎え、お身内を何人も介護、看取られ、その度感じた事、気づいた事をお聞きしました。入院中に看護師が家族に言った「自宅に戻りたいんですよね」という何気ない一言は、介護をしている家族にとって、とても辛く、心に刺さる言葉だと指摘されて、看護師がハッとされたお話も印象的でした。



事をお聞きしました。入院中に看護師が家族に言った「自宅に戻りたいんですよね」という何気ない一言は、介護をしている家族にとって、とても辛く、心に刺さる言葉だと指摘されて、看護師がハッとされたお話も印象的でした。



第二部は県内のホームホスピスの姫路市「ひなたの家」、加古川市「癒居」、神戸市「神戸なごみの家」、「愛逢の家」からの報告があり、コーディネーターの岡本峰子さんの進行でシンポジウムをしました。47万人の高齢者が暮らしてゆけるための地域をつくるには、若い人に頼るのではなく、65歳以上の人が動く互助の繰り返しが必要だとも語られました。 <愛逢の家 喜多美千代>

既に届いている方もいらっしゃると思いますが NPO法人愛逢 第10回通常総会のご案内

日時 6月 8日 (土) 午後6時

会場 小中島福社会館 (2F)

2013年度会員登録更新とご入会のお願いについて

愛逢会員の皆様、そろそろ会員登録更新の時期が近づいてまいりました。

引き続きましてお力添えの程、よろしくお願い申し上げます。

正会員 : 年会費 3,000円 入会費: 2,000円 (初回・正会員のみ)

賛助会員: 年会費 2,000円

※お問い合わせ 電話06-6493-1424

第21回ふるさと雪まつり



2月11日（祝）今年も香美町から雪が届けられました。関わった人の感想です。

★雪まつり愛逢は、炊き込みご飯をしました。「あっ」と言う間に売り切れて大盛況でした。みんなで協力出来て楽しく参加する事が出来ました。<成尾 幸恵>



★毎年、行われいてる雪まつりの行事。今年は、炊き込みご飯作りの手伝いと雪まつりにも参加しました。会場に着くと、大勢の人と店舗その中で愛逢が売っている炊き込みご飯を買うつもりで



行ったら、売り切れで残念でした。<岩崎 由貴美>

★毎年2月11日、建国記念の日に丸橋公園では地域の方達と共に雪まつりが催されます。今年も楽しく遊んでいただきたく昼食に恒例の「炊き込みご飯」をお作りしましたが、おなか十分になりましたでしょうか？<大山 靖江>

ホームヘルパー技術研修をしました！



2月9日に訪問介護ミーティング内で技術研修がありました。分かっているのに、つい忘れてしまいそうになる基本的な声かけ、安全確認を再認識出来て、反省する面もありました。

何組か順番に同じ事例をやりましたが、仕草、表情、言葉づかい、それぞれに個性があり、とても勉強になりました。これからはひとつひとつを確認しながら今後に生かしたいと思います。<高橋 めぐむ>

「愛逢の家」のことを聞いてもらいました

泉北にホスピスを進める会「ウィル」と小園小学校PTAの皆様にご紹介しました

ウィルは、バブル期に花を咲かせ、その余韻がまだ覚めやらぬ感はあるながらも、自分たちの老後を、ひとりになったときのことを、今から考えていこうと行動している人たちの集まりでした。

小園小学校 PTA のグループは子育てをしながら自分たちの親のことを考え、子ども

に命のことをどう伝えるのか考えている人たちでした。話を聞いてもらいながら感じたことは、3年前に比べ、「死」を自分にひきつけて考えられる人たちが増えたな、ということです。これは大変大きな変化だと受け止めています。これからも伝え続けたいと思っています。<兼行 栄子>

第2弾!!

私たちの愛逢を語ろう知ろう

NPO編

2013年3月20日(水) 小中島会館



前回の“ボランティア編”に引き続き、今回は“NPO編”ということで“愛逢くらぶ”から“NPO法人愛逢”当時のエピソードを、初代理事長の坂本敬子さんに語っていただきました。今回は27名の参加があり、NPO法人愛逢の設立に携わられた方から、昨年仲間となった新しいスタッフまでが揃い歴史を共有することができました。利用者さんも来て下さり、賑やかな時間となりました。

《語り》

“愛逢くらぶ”からの助け合い活動は、介護保険が始まりほとんどが制度でまかなわれるようになり、活動があってこそ生き生きする私たちの援助活動は停滞していきましました。運営や活動の再開を思い、動き出したのがNPO法人格の取得でした。まず愛逢くらぶの運営委員に理解して頂くために勉強し、援助会員、各部門(移送、配食)、阪神医療生協の各支部へとお話に回りました。そして、2004年4月25日には「愛逢くらぶ第11回総会&NPO愛逢を祝う茶話会」が行われました。運営の問題と、これまでの助け合い活動を活かす為に、同年6月から介護保険の訪問介護事業を“想い”の帆に掲げて船出しました。財源が十分ではなかったため、初

めて事務所に来たパソコンは地域の皆さんのご協力を得て行ったバザーの売上で購入した物でした。さらに、何もかもが初め



ての経験だったため必要なパソコンの作業も地域の男性に手伝っていただくなど、たくさんの方の助けの中必死にやっていました。いろんな人たちとの巡り合いや様々な機会と仲間があり、活動を続けることができています。

<坂本 敬子>

《ディスカッション》

本当に楽しかった。どうしてやって来たのかと聞かれるが、ここだからやって来た。とにかくここでみんな一緒にやっていたかった。

自宅で何もしていなかった私は、ひよんなきつけから愛逢へ来た。みんなに助けられて今がある。仲間が大好きな愛逢を私も大好きです。

移送から関わり、これほど忙しいとは思っていなかったが、たくさんの活動に参加してきたお陰で今も健康です。

仲間と、ご飯も食べる間もなく活動していました。それでも楽しかった。

引っ込み思案な自分が、配食ボランティアに関わり、ヘルパーの資格を取得し、人前で話ができるようになり自分は変わる事が出来た。想像もつかなかった。

参加者の中からも、「ほんとやねえ」と声が上がっていました。

「初めは続くかなあと思っていたけど、よくがんばってるねえ」と、大先輩達からも声が・・・

(法人格の取得からずっと職員一人でやってきたNPO法人愛逢にとっての初めてのパートで来られた方です) 愛逢へ来てから、利用者さんの送迎などの活動もあり、車の免許を取りに行きました。これまでやって来れたのも、周りの方たちのお陰です。

家族を助ける姿はこれまでも見てきたが、地域の人を助ける姿はあまり見た事がなかった。なぜできるのかと不思議でしたが、愛逢の歴史を聞いて納得!!

法人になってから、ずっと愛逢ニュースの編集委員長をやっていますが、未だにすごく楽しい。私以外のメンバーはすっかり変わっていますが、愛逢を通して人付き合いの幅が広がりました。



支え合いの地域づくりをやっていこうという熱い思いで作られ、今でも思いがふつふつとあります。きっと皆さんの中にも同じ思いを持っている方がたくさんいるはず。その、心の中の気持ちをどんどん弾き出そうではありませんか!! <長谷川 達雄>

《これからの愛逢の役割》

研修交流会の最後に、今回もファシリテーターを担当した岩本理事から「これからの愛逢の役割」についてお話がありました。

このように歴史を学ぶことは非常に大切なことです。まず、これまでの歴史と現在を共有することで仲間になる。そしてこの先、どう進むのかを考え、みんなが同じ方向を向いて歩いていく一つのきっかけとなると思います。これから愛逢は、地縁組織と色々なNPOを繋げるネットワークの核となり、地域に必要なものを補っていき、地域にない新しい物を創り上げていく活動が広がればよいように思います。(※ファシリテーター・・・中立的立場で議事進行を行う人のこと) <岩本 裕子>



第3弾!!

2回に続けて行ってきた、愛逢の歴史を知る研修交流会ですが、3回目を企画しております。日程等は未定ですが、歴史を学んだ上で“これからの愛逢”を考えていく構成を予定しておりますので、少しでも多くの皆様にご参加いただきたいと思います。追って、日程等が決まり次第ご案内いたします。

2月5日の神戸新聞記事

ホームホスピスにとって

大きな動きです

兵庫県が、高齢社会が進む中での新しい住まい方として、ホームホスピスの有効性を公的に認めたことの意義は非常に大きい。その存在が、これを皮切りに全国的に広がりを持ち、住みよい地域づくりの一助になることを期待する。〈理事長 長谷川達雄〉

終末期の患者数人が1軒の民家で暮らす「ホームホスピス」について、兵庫県は2013年度、事業者が開設する際に必要な民家の改修費を、1カ所当たり最大500万円まで補助する方針を固めた。ホームホスピスは、在宅でも施設でもな

ホームホスピスに補助金

ホームホスピスは、04年に姫路市で開設されたのが先駆けとされる。末期がんなど終末期の患者数人が民家を共用し、医療と介護で痛みを緩和ケアを受けながら生活する。兵庫県内には、いずれもNPO法人の運営で神戸、尼崎、姫路、加古川市に1カ所ずつあり、洲本市でも開設に向けた動きがある。

超高齢社会と核家族化が進む中、潜在的な入居希望者は多いとみられるが、法律に基づく制度化は進んでいない。全国的にも、資金の不足が普及への障となつている。中でも開設時に民家を

改修する費用は、入居者の安全性やプライバシー確保のため多額になる。このため、県はホームホスピスを開設する事業者を募り、民家のバリアフリー化や間取りの変更、スプリンクラーや家庭用エレベーター、階段昇降機の設置などに補助する方針を固めた。

上順の1カ所当たり500万円、3カ所まで計1500万円を、13年度当初予算案に盛り込むことを検討している。

また、ホームホスピス開設を考えている人に対し、全国的には他に例がないとみられる。

ホームホスピスに対する行政の支援は、宮崎市が12年度、事業者が民家を借りる際の家賃の半分（1カ所当たり月額上限5万円）を補助しているが、全国的には他に例がないとみられる。

（片岡達美、岸本達也）

い、第3のホスピス」と注目を集める。県は全国最多とみられる計4カ所がある先進県として、普及を後押ししたい考えだ。

事業者が民家を借りたり購入したりして、末期がん患者らを受け入れ、住み慣れた地域や自宅に近い環境での生活を支援する。法的な定義はなく、在宅ケアと同様、入居者が住診や訪問看護、訪問介護サービスを受ける形が一般的。兵庫県内第1号の「神戸なごみの家」（神戸市長田区）の場合、入居者は医療費や介護費用の自己負担分とは別に、家賃や食費、光熱費など月12万円を負担。規程はなく、家族も自由に出入りできる。



ミッション(社会的使命)

私たちは多様な生き方が尊重され、
誰もが安心して暮らせる地域を作る為に、
仲間と支えあい(愛)、つなぎあ(逢)っていきます。

大切なお知らせです

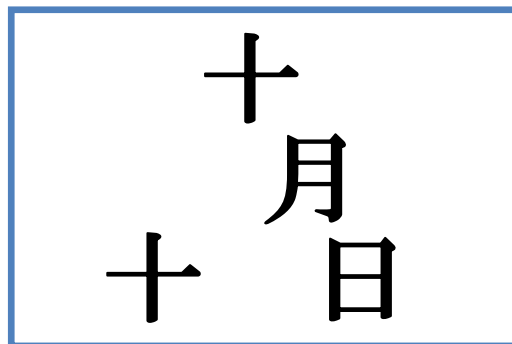
介護保険、その他利用料につきまして、**集金システム**を変更いたしますので、ご協力をお願い致します。



漢字ばらばらゲームで脳トシ

Q 何の漢字でしょうか。

※元の漢字を当てるゲームです。



回答は下記にあります。

ヒントは、(コケッコー!!!)



ホ ッ ト 待 夢

今年の桜は例年になく、早咲きのようです。



北陸に旅した時に、タクシーの運転手さんに「桜の開花は、関西と比べると遅いですか？」と尋ねてみました。「ところがそうでもないのですよ。寒さが続いている時、ほんの少しの暖かさがあればポッと花が咲くのです。その色の鮮やかなこと！寒さに耐え忍んだ蕾がやっと報われたように開くからでしょう。それに比べて南国の桜は、暖かさの中で、いつともなしに開いている。でもそうすると色がね、ぼやけるのですよ。キリッとしていない。」とおっしゃいました。

人はどうでしょうねえ…苦勞をして耐え忍ぶことで、いつか美しい花が開く。苦勞は買ってでもせよという諺もあります。ずっと幸せに越したことはないけれど、辛くてもやがて色鮮やかな花が咲く時がくると信じていましょう。



< 海 >

第47号のニュースに誤りがありました。「愛逢を支える人たちシリーズ」の愛逢ニュースの編集長の「楠本きみゑ」→「楠元きみゑ」の誤りでした。深くお詫び申し上げます。



解答

朝